

Bayer Medical Dialogue Radiology

膵癌の病期診断・切除可能性評価の臨床的重要性とその実施方法について

日時: 2022年**11**月**7**日(月) **18:30~20:00**

講演1 | 18:30-19:15

膵癌の病期診断・切除可能性評価の臨床的意義 ～治療成績の観点から～



演者

大庭 篤志 先生

がん研有明病院
肝胆膵外科 副医長

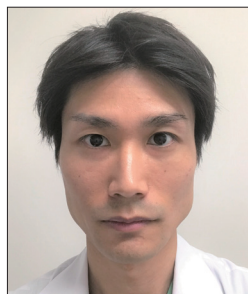
<ご略歴>

2001年 開成高校卒業
2007年 東京医科歯科大学医学部卒業、初期研修医(同大学附属病院、取手協同病院)
2009年 同外科医局入局、後期研修(秀和総合病院、等潤病院)
2012年 国立がんセンター東病院 上腹部外科レジデント
東京医科歯科大学 肝胆膵外科 大学院入学
2014年 東京医科歯科大学 肝胆膵外科医員
2016年 がん研有明病院 肝胆膵外科医員
2019年 がん研有明病院 肝胆膵外科副医長
2019年 コロラド大学 外科研究員
2020年 がん研有明病院 肝胆膵外科副医長
2022年 東京医科歯科大学 臨床准教授 併任
現在に至る

膵癌は全身病であり、化学療法を含めた集学的治療によって生存成績の改善を図ることができる。病期に応じた最適な治療戦略を提示するために重要なことは、治療前の徹底した病期診断・切除可能性評価であり、腫瘍マーカーとEOB-MRIでの微小肝転移の検索は必須であると考えられる。切除可能/境界膵癌に対する周術期化学療法と膵切除の選択、局所進行/遠隔転移膵癌に対する全身化学療法と奏功例のコンバージョン手術の選択において、レジメン・治療期間・手術のタイミングが重要となる。当院での治療成績と共に膵癌治療成績向上への取り組みを紹介したい。

講演2 | 19:15-20:00

膵癌の画像診断～放射線科医の苦悩～



演者

野田 佳史 先生

岐阜大学医学部附属病院
放射線科 講師

<ご略歴>

2010年 岐阜大学医学部医学科卒業
2010年 岐阜大学医学部附属病院初期臨床研修医
2012年 岐阜大学医学部附属病院放射線科 医員
2016年 岐阜大学医学部附属病院放射線科 助教
2019年 Massachusetts General Hospital, Department of Radiology, Research Fellow
2020年 岐阜大学医学部附属病院放射線科 助教
2022年 岐阜大学医学部附属病院放射線科 講師
現在に至る

膵癌の術前画像診断が臨床上重要な役割を果たしているのは言うまでもない。日常診療では、ガイドラインに基づいて局所浸潤の程度や遠隔転移の有無につき、系統的な読影を求められる。我々放射線科医が読影しているCT・MRI“画像”は客観性が高いと考えられているが、膵癌の“画像診断”では時に主観的にならざるを得ない。そのため、切除可能性分類評価も含めて客観的な診断を心がけている一方、術中所見や病理所見と乖離が生じる症例も少なくない。画像がもたらす客観的で有益な情報と、放射線科医が悩んで下す主観的な診断…。本講演では膵癌画像診断の現状をお話しする。

ご自宅や病院、診療所などから、インターネットを通じてライブに参加いただけるカンファレンスです。

Q&Aについて

インターネットを通じて随時質問を受け付けます。
お寄せいただいた質問は講演の最後にご回答をいただく予定です。

●WEBカンファレンスの参加方法は裏面をご参照下さい。

主催：バイエル薬品株式会社